

船井情報科学振興財団 留学生レポート

2013年11月

澤田 真行

1 はじめに

私は現在、Yale University, Graduate School of Arts and Science の Economics PhD コースの一年目に所属しています。Yale 大学は東海岸の、New York と Massachusetts とにはさまれた小さな州、Connecticut, New Haven に位置しています。

2 生活

New Haven に到着したのは7月の末のことで、夏真っ盛りでした。聞く様子だと東海岸も夏はそんなに過ごし易くないと脅されていたのですが、実際にはそんなことはなく、(さすがに西海岸はもっとからっとしてよいのでしょうか)とても過ごしよい気候でした。その代わり冬の到来がとても早く、10月にして日によっては1月か2月なんじゃないかと思うほどに寒い朝がきています。遠くない将来に雪の時期がくるそうなので、急いでスノーブーツを買わねばなあと思っているところです。

私は現在キャンパスのど真ん中に位置する Hall of Graduate Studies という建物に住んでいます。これは寮と一部の教授のオフィス(どうやら東アジア研究者が多いようで、日本人の方も何人かいらっしゃるようですが、まだお目にかかっておりません)が組合わさったものになっていて、私が住んでいる棟も3階が居住フロア、1、2階にオフィスがあります。ですので平日の朝などに何も考えずジャージのまま下に降りてゆくと、オフィスパワーの順番待ちをしているきちんとした身なりをした学生とはちあわせになり、少し恥ずかしい思いをしています。

New Haven 自体は小さな市で、大学以外には何も無いと言って差し支えなさそうです。キャンパスの少しはずれにいくと、取り壊されもせず朽ちたままの工場跡があったり、少しおどろおどろしい雰囲気をただよっています。(そしてそのあたりは治安的にも怖い地域です。)

キャンパス周辺自体はかなり警備が行き届いており、道と時間を間違えなければ生活に不安を感じることはあまりありません。それでも、ずいぶん向上したとはいえ、やはり全米でも下から数えたほうが早い治安の悪さを誇る地域ですので、定期的に少し怖い話が耳に入ってきます。大体は人の居ないところでイヤホンつけたままジョギングしていただとか、不用心なものが多いですが。

今の寮には不満も多いのですが、良いこともありました。幸いながら同じ学年の同じ経済学のコースの学生が5人住んでおり、彼らと食事を共にすることが多いです。この建物にはキッチンらしいキッチンがないので、食事は食堂で済ませることがほとんどですが、なかなか食事はつらいものがあります。決して食べられるものがないというわけではないのですが、食にこそ文化の違いが如実にあらわれるのだということ身にしみて感じています。それでも、彼らのおかげで日々和気あいあいと過ごしています。

3 英語

入ってきて痛感したのは、中国人学生の多さです。経済学の課程には数人しかおりませんが、理系の研究室によっては8割や9割が中国人で、実質研究室での共通言語が中国語になっているところもあるそうです。

アジア人が多いためかどうかわかりませんが、Yaleの大学院は院生の語学教育にかなり力を割いていて、TOEFLのスピーキングスコアが25点未満だった学生には8月の一ヶ月間のサマーコースと秋学期の英語のコースが提供されています。コースワークのさなか、週4時間を割くのは少し負担ではありますが、その質はとてよく、言語学などを専攻している教員が指導にあたっていて、かなり身になるトレーニングを受けています。

英語の方には四ヶ月目の今になってやっと、なんとか慣れてきたという感じがあります。しかしながらTAをやっている院生を見たり、院生の発表などを聞いていると、こんな目指せるだろうかという理想的な姿とちゃんとやらないとこうなってしまうんだという反面教師的な姿が同居していて、日々ただただ危機感をあおられています。

4 研究

他の方々には理系の方が多く、ほとんどの方は研究室でもうすでに研究を初めているところかと思いますが、経済学はその辺りが少しゆっくりと進みます。一年目は経済学の基礎科目を、二年目は経済学の応用科目をそれぞれ単位取得し、一年次の最後に受けるペーパーテストと二年次の最後に受ける口頭の試験を経てやっと研究に進むことができます。

先月ちょうど、最初の間試験を終えたところで、二年ぶりに受けるまともな試験に少し戸惑いもありましたが、まだどうかなっているようです。今はミクロ経済学とマクロ経済学、そして基礎の計量経済学ではなく時系列計量経済学の講義をとっています。本来は二年次以降のコースなのですが、計量経済学は必須ではなく自由にとってよいということなので、今まであまり触れたことのなかったものに挑戦してみています。

この時系列計量経済学の講義はかなりハードなのですが、先日ノーベル賞の際にロイターの「今年の予想候補者リスト」に掲載されていたPeter Phillips教授が教えており、とても実りのあるものになっています。

ノーベル賞といえば今年は所属のRobert Shiller教授が経済学賞を受賞しまして、その直後の記念パーティー(といってもとても小さなものでしたが、後で教職員向けのちゃんとしたパーティーが開かれたようです。)に院生も招かれまして、ああこれが噂のシラー教授かとミーハーながら写真をとったりして楽しみました。こういうものも、日本にいて海外の誰々が受賞したと聞いてもあまり興味がわかないものですが、自分が所属しているところの教授が受賞したとなると自然と興味がわいてくるので不思議なものです。

5 おわりに

とりあえずは今のところ、ほとんどの時間を講義の復習、宿題と語学勉強に割いており、ほとんど研究らしい研究はできていません。それでも同期と雑ながらもプロポーザルを話合ったり、面白そうな発表があると誘い合ったりして院生によるワークショップを聞きにいったりと充実した生活を送っています。今年はまた豪雪になると聞きました。厳しい冬と期末試験に備えて、次の帰省での日本の食事を楽しみに頑張りたいと思います。